

# 下野市立石橋中学校

## 1 学校課題

「主体的に問い続ける学習者の育成」

～論理的思考を基盤とした課題発見・課題解決の学習の推進～

## 2 研究計画

### (1) 主題設定の理由

本校の目指す学校像は「生徒も先生も自ら輝く学校」である。そして、ビジョンは「未来を、たくましく生き抜ける生徒」の育成であり、「自立」「貢献」「創造」を掲げている。急速に変化していく社会を生き抜いていくために、「主体的に問い続ける学習者」になることが必要であると考え。そのために「自ら課題を見付け、個人では解決できない問題にも級友と協力して取り組み、自律的に解決していける生徒」の育成を目指すことで、研究主題に迫っていききたい。

### (2) 研究の仮説

「レベルの高い課題（一人では容易に解決できない課題、知的好奇心をゆさぶる課題）」を提示し、仲間と協働して解決する過程を通して、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を展開し、「主体的に問い続ける学習者」を育成できると考える。

## 3 研究内容

授業力向上に関すること

### (1) 一人一公開授業

今年度も昨年度に引き続き異教科異年齢3人の班を構成し、一人一公開授業及び授業後の授業研究会を実施した。公開授業の実施にあたっては、学校課題の「論理的思考を基盤とした課題発見・課題解決の学習の推進」を意識した課題を選び、授業を行った。課題は、教科書の問題（それをさらに発展させた問題）や独自に考えた問題など、生徒が興味をもち、考えたい、知りたい、深めたい、プレゼンしたいというものを選んだ。異教科の教員の授業を参観しお互いに刺激をもらい、学び合うことができた。



#### 【一人一授業で実践した課題】

- ・国語科「短歌（俳句）の魅力をプレゼンしよう」「名言の秘密を探ろう」
- ・社会科「ベーシックインカムから資本主義と社会主義の違いを考えよう」「なぜ江戸幕府は滅亡したのか」
- ・数学科「石橋タワーの高さを求めよう」「 $75^\circ$ を作図しよう」「正多面体はなぜ5種類しかないのか」
- ・理科「混合物に含まれている物質を調べよう」「天気予報をしよう」
- ・英語科「英語で友達にお願いをしよう」「冬休みの出来事を尋ねたり、答えたりしよう」
- ・音楽科「雅楽（越天楽）の鑑賞」「民謡のプレゼンをしよう」
- ・美術科「仏像彫刻のよさや美しさを感じ取り、特徴を捉えよう」
- ・保健体育科「首はね起きに必要な要素を考えよう」「疲れを回復させるベストな方法を考えよう」「走幅跳の自分や仲間の課題を見つけて練習しよう」
- ・技術・家庭科「情報モラルについて考えよう」

### (2) 教科部会（時間割に位置付け）

教科内で授業内容や指導方法について専門的に話し合うため、教科部会を時間割に位置付けた。教科内での公開授業を行い、教員の授業への意欲も高まり、授業力の向上が図られた。

### (3) 総合的な学習の時間でのゼミ活動

SDGsをテーマにゼミ活動を行った。「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ」の流れで、グループで協力し探究活動を行った。「体験・実験」「アンケート調査」などの活動を意図的に行うようにさせ、「当事者意識」をもち学習に取り組みさせた。また、タブレットを用いて、「相手に伝わる発表」を行った。

(4) 校内研修やS&Uコラボ研修会

「学び合い」の授業を行う上で、教師としての必要なスキルを向上させるための校内研修やS&Uコラボ事業による研修会・授業研究会を実施した。「レベルが高く、知的好奇心をゆさぶる課題」を提示し、仲間と協働して解決する過程を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業を行った。



月日	学年	単元名(題材名)、教材名	課題追究のための手立て等
7/12	1年	道徳「近くにいた友」	自分の考えをもった上で、他者の意見を聞き、改めて自分の考えを深めさせる。
10/26	1年	家庭「おいしいオレンジジュースを作るのは何が必要か考えよう(食品の選択と保存)」	食品を選択する時に、何を優先に考えるかによって結論は変わるので、根拠を明らかにして説明できるようにさせる。
12/6	3年	社会「法律やきまりを意識した教員の働き方を考えよう(生産と労働)」	多面的多角的な視点で考えられる課題で協働的な学びを通して考えを深めさせる。

(5) ローテーション道徳

ローテーション道徳を年2回(6月・12月)実施した。同じ教材の授業を複数の教師が複数の学級で行うことで授業改善を図ることができた。また、本校教員が作成した地域教材を使った授業を、中心発問や展開などの改善を繰り返し行い、1・2年生全クラスで実施した。

(6) 石中教育フォーラム

年度末の校内研修として、全教員が個人レポートを作成し、それをもとにこの1年間の日々の授業や公開授業、研修などで学んだことを共有した。また、学校課題や「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学び」の関連性についての研修を行った。

## 4 本年度の成果と課題

(1) 成果

学校全体として、生徒が容易に解決できない課題、知的好奇心をゆさぶる課題を設定し、ペア学習やグループ学習による対話を通じた深い学びを実践するための取組を行ってきた。こうした「レベルの高い課題」の授業について、全教員が公開し、授業研究会を各グループで行うなど、授業力向上のための実践を行うことができた。こうした授業を行うことで、教員も生徒も「授業が楽しい」と実感することができた。また、国語科では、グループ毎に、より深く多面的多角的に学び、iPadを使ってプレゼンする授業が定着してきた。社会科では、ジグソー法を用いて、自主的に学ぶ力や多面的多角的に学んだことを共有する力を養い、共有したことをまとめていく授業実践を行うことができた。学校評価アンケートで、「友達と協力して学習し、自分の考えに生かしている」は、3年生が2.7(3段階評価)と高い評価であった。

(2) 課題

「主体的に問い続ける学習者の育成」を学校課題として、様々な実践を行ってきたが、学校評価アンケートで、「授業に意欲的に取り組んでいる」は、3年生が2.5、1・2年生が2.2だった。発展課題に挑戦する授業は、授業全体の中では、少ない時数である。基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける授業において、生徒がより主体的に学んでいく授業デザインについての研究が必要だと感じる。